

木材加工をベースに機械加工の可能性を拡大し

新刊11本の
モノづくりを提案する

Machining JP
CORE

新産業メディア

マシニングコア

x3年3月号



3年間で34拠点を支援

木のまち・木のいえ 担い手育成拠点事業 成果報告会

木材需要促進の新たな担い手を育てる 12拠点が活動を報告

(一社)木を活かす建築推進協議会(大橋好光代表理事＝東京都市大学教授)は3月11日午後1時から東京都文京区後楽のすまい・木のいえ担い手育成拠点事業成果報告会を開催。2012年度担い手育成に取り組んだ12拠点が成果や今後の課題を発表した。

事業開始から3年

木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業は2010年度から林野庁が実施してきた事業。国産材、地域材を中心に供給サイドでは木材利用の気運が高まる一方、ピーク時95万人だった大工職が40万人と激減するなど木造住宅・木造建築などの木材需要につなげる拠点は逆に弱体化の一途をたどりつつある現状を踏まえ、木のまち・木のいえをつくる担い手の育成を支援するもの。事業の背景について詳しくは次の通り。

「戦後植林されたスギ、ヒノキを中心とする我が国の人工林資源は現在利用可能な充実期を迎えている。森林の持つ国土保全や水源かん養などの多面的機能を十分に発揮す

るため、地域材の利用拡大を図ることが極めて重要であり、森林・林業再生プランでは、2020年における木材自給率50%以上を目指している。一方、我が国の木造住宅・建築物は戦後、森林の荒廃や被災経験から不燃化が推し進められ、国産材の利活用は抑制気味だったが、1998年の建築基準法改正や2010年の公共建築物等木材利用促進法制定を契機に、CO₂の削減に向けて木材の利活用を推進して行く方向に転換している。そのような環境下で近年、木造建築物に関する木材利用の開発や研究が進んではいるが、木材に関する知識の取得や木造建築に係る設計・施工に必要な技術やノウハウは十分に普及していないのが現状。また、大工職などの木造技能者についても若者の参入が激減するとともに高齢化も急速に進行し、木造を担う人材の不足が懸念されている。加えて木材・木造に関わる技術者・技能者に対して将来に向けた育成体制は整っているとは言えず、未整備で脆弱な状況が続いている」

この事業では木造住宅・建築物に係る木材調達、木材加工、設計・施工、

維持管理などの技術者・技能者育成のための取り組みモデルとするため、木材の特性・加工・流通などの知識や技術、木造の設計・施工に通じた知識や技術を備えた担い手の育成に向けた取り組みを行う拠点を広く募集し、これまで2010年度に10拠点、2011年度に12拠点を選定し、拠点育成の推進を行ってきた。

成果報告会では12拠点が次のテーマで活動内容を報告した。

さまざまな取り組み

1年度目事業者

▽NPO法人木材・合板博物館「木材と放射能に関する正しい知識を普及できる人材の育成」

▽(一社)山梨県木造住宅協会「県産材を知り、製材による架構を学んだ人材創り」

▽協同組合東濃地域木材流通センター「木造住宅の省エネルギーを計算で確かめられるこれからの時代の建築技術者育成講座」

▽職業訓練法人愛知県建設センター「『木』を知る設計者・技能者リーダーの育成」

2年度目事業者

▽NPO法人木の家だいすきの会

木造住宅検定

建主の要望を満たす意匠設計と
合理的で安全な架構を両立させる
技能検定～設計者の育成の仕組み



構造技術者向け
プレカット技術者

木造住宅設計検定

木造住宅架構診断演習+基準法壁量計算[設計検定3級]
デザインレビュー演習+品確法壁量設計演習[設計検定2級]

木造住宅架構検定

木造住宅架構診断演習+基準法壁量設計演習[架構検定3級]
構造レビュー演習+品確法壁量設計演習[架構検定2級]

木造住宅設計検定3級講習会

平成25年1月
名古屋、横浜、広島3会場
各会場全2日 計14時間
講習後に検定を実施
参加者 35名



木造住宅デザイン研究所ユア・ホームの発表

「木づくり耐震エコリフォーム担い
手育成拠点事業」

▽NPO法人建築技術支援協会
『木質構造建築』設計者の育成～W
ebセミナー+地域グループ実習型
セミナー」

▽ひょうご木のすまい協議会「ひ
ょうごの地域住宅担い手育成のため
の設計道場」

3年度目事業者

▽(一社)日本木材学会『木のま
ち・木のいえづくり』を目指す若者の
ための教育プログラムの構築」

▽NPO木の建築フォーラム「建築
系学生のための実習型木造建築学」

▽(一社)木造住宅デザイン研究所
ユア・ホーム「プレカット工場を拠点
とする木のまち・木のいえ担い手育

成と木造住宅検定(プレカット検定)
の実施」

▽NPO法人サウンドウッズ「森
から木造建築まで地域産木材流通を
コーディネートする人材育成事業」

▽広島インテリア協議会「～木造
先進都市ひろしまを創る～木造住宅
と木質化リフォームの市場を創る木
造建築士の育成」

各年度の報告終了ごとに、小野泰
(ものづくり大学教授)、林知行((独)
森林総合研究所研究コーディネー
タ)、蟹澤宏剛(芝浦工業大学教授)の
各アドバイザーが発表を取りまとめ
た。

ションを併催した。木のまち・木のい
え担い手育成拠点事業が3年目を迎
えたことから、さらなる木材利用推
進を図るために木材・木造の担い手
育成のこれからについて専門家の意
見を交換する機会としたもの。安藤
直人氏(東京大学名誉教授)がコメン
テーターとなって、担い手評価委員
会・藤沢好一委員長(芝浦工業大学名
誉教授)と担い手育成拠点から大橋
好光(東京都市大学教授)、安田哲也
(NPO法人サウンドウッズ代表理
事)の両氏が3年間で34グループを
支援してきた事業成果を踏まえ、こ
れからの「木のまち・木のいえの担い
手」について意見を交わした。

専門家の意見交換も

小憩をはさんでパネルディスカッ

→ninaite-ikusei.jp

「刃物専門業」最新の利用技法と最適な保守でお応えいたします。

本社・工場
〒738-0022 広島県廿日市市木材港南四ノ一六
FAX (〇八二九) 三二一〇〇〇
FAX (〇八二九) 三二一〇二六〇
事業所 浜田市

超硬刃物の販売・研磨
株式会社 山崎精研

全国機械用刃物研磨工業協同組合員
(超硬刃物研磨技能士工場)

本社・工場
〒496-0833 愛知県津島市常盤町一ノ四一ノ三
FAX (〇五六七) 二四一五二六六
FAX (〇五六七) 二四一七〇六八

超硬刃物の販売・研磨
立松丸鋸加工株式会社

全国機械用刃物研磨工業協同組合員
(超硬刃物研磨技能士工場)

本社・工場
〒474-0011 愛知県大府市横根町坊主山一ノ五七七
FAX (〇五六二) 四八一三三三
FAX (〇五六二) 四八一三三四

超硬刃物販売と研磨
大府精巧 有限会社

全国機械用刃物研磨工業協同組合員
(超硬刃物研磨技能士工場)

本社・工場
〒192-0152 東京都八王子市美山町二一六一一七
FAX (〇四二六) 五〇七六一一
FAX (〇四二六) 五〇七六〇〇

超硬刃物販売・研磨
マルエム工業株式会社

全国機械用刃物研磨工業協同組合員
(超硬刃物研磨技能士工場)

本社・工場
〒950-0821 新潟市岡山二二八二
FAX (〇二五) 二七一七一一四
FAX (〇二五) 二七三一九九〇

超硬刃物販売・研磨
株式会社 加藤研削工業

全国機械用刃物研磨工業協同組合員
(超硬刃物研磨技能士工場)

【詳細は MachiningCore 2013年3月号】



世界最大の木工機械見本市

リグナ (ドイツ)

5月6日にハノーファーで開幕 木材加工技術の最新情報拠点に

木材加工分野で世界最大規模の専門見本市・リグナ2013は5月6日(月)から10日(金)までの5日間、ドイツ・ハノーファー市のハノーバー国際見本市会場で開催し、木材利用と木材加工の最新技術を紹介する。リグナ(国際木工・林業機械見本市)は2年に一度開催する木材加工技術の専門見本市で、林業用機械・運搬車両及び装置、木材及び単板製造用機械、木材加工技術、木屑利用、指物・家具及び建具手工業用機械、木工用手工業のための機械、木造建築、内装、木材技術及び応用技術、産業用家具製造のための機械、自動化技術を幅広く網羅し、前回(2011年)は総展示面積13万㎡にドイツ国外48カ国の867社を含む合計1,723社が出展し、約8万8千人が来場した。開場時間は午前9時から午後6時まで。入場料金は1日券が24ユーロ、5日間有効の通し券が38ユーロ、前売りの場合はそれぞれ20ユーロ、34ユーロで、ディスカウント1日券(11ユーロ)、アフターヌーンチケット(6ユーロ、ともに窓口販

売のみ)もある。詳細はハノーバーフェアーズジャパン(株)まで。

屋内会場のゾーニングは次の通り。ハレ27には製材所向けの技術を表示する。ノコを使った様々な装置から最新の計測法、原木の在庫や等級付けに関わる技術までカバーする。各種の木質ボード製品や単板・合板製造分野の展示もある。ハレ12と13は無垢材加工用機械メーカーの新製品を展示する。家具産業用の生産設備はハレ16、17、25、26に展示し、工場設備、加工機械、システム、オートメーション技術、軽量構造システムと表面処理技術など家具製造分野の最新技術を紹介する。家具製造分野のトレンドは軽量構造システムと表面処理技術。軽量構造は航空宇宙産業や自動車産業で重要な技術原理だが、家具産業でも重要性が高まっている。

林業から製材・合板、内装用木製品関連の各種加工、木造建築用構造材加工まで木材加工のほぼ全分野を網羅するリグナは早くから木質資源の

エネルギー利用を特集する展示を行ってきた。安定産業の段階に入ったこの分野でも特別展示や併催セミナーを含めてさまざまな企画を実施する。また、主催者のVDMA(ドイツ機械製造業連合会)が生産設備の省エネを特集した展示企画「ブルー・コンピタンス・サステナビリティ・キャンペーン」を実施する。ブルー・コンピタンスはVDMAが主唱して2011年末に始まった活動で、地球環境の持続的発展に配慮した生産技術の普及・促進を進め、現在、340社が加盟、有効な開発プロジェクトは既に100件を超える。

リグナでは世界から集結する来場者のためインターネットを活用したオンライン・サービスを積極的に採用、拡充を図っている。昨年、始まったインターネットのポータルサイト(www.ligna.tv)が専用のIPTVチャンネルになり、会場で展示される最新技術、基調テーマ、トレンドに関する情報を放映する。

→www.ligna.de

【詳細は MachiningCore 2013年3月号】